

人生のしがらみと
「縁」を
生きる教え

ダンマパダ
(法句經)



『ダンマパダ(法句經)』は人生の指針となる言葉を集めた、まさに“ブツダの肉声”ともいえるお経です。読み進めていけば、ブツダの教えの基本を身につけることができます。



中野東禅

人生のしがらみと「縁」を生きる教え

——ダンマバダ（法句経）

● もへご

はじめに……………04

コラム 待つ力と飛び込む力……………07

「恨み」の連鎖を止める……………10

花の香りのように——「徳」「こそ人間の輝き……………14

愚かな行為は、あなたを一生悩ませる……………18

「因果応報」と「あたり」は違う……………22

コラム 心のリズムが広がる楽しさ……………27

「縁」を大切に前向きに生きる……………28

善からぬ友は、あなたを悪に染める……………30

コラム 友 善き人……………33

清らかな自己を確かめよ……………34

悪や汚れから距離を置け……………36

「愛欲」から「慈愛」へ……………40

コラム 眼に見え・見えない共感の徳……………43

「あの世」「は心が行くところ」……………44

コラム よかったと言えたらあの世もよかったになる……………51

おわりに……………54

❁ 愚かな行為は、あなたを一生悩ませる

悪行をしても、その業カルマは、しほり立ての牛乳のように、すぐに固まることはない。(徐々に固まって熟する。)その業は、灰に覆われた火のように、(徐々に)燃えて悩ましながら、愚者につきまとう。(七一)

「業カルマ」とは、「心と行いによる影響」を意味し、サンスクリット語で「カルマ」といいます。善いことでも悪いことでも何かを思ったり、行ったりしたことは、かならずそれが原因となって何かしらの影響をおよぼします。そして、その影響はすぐに表れるものではありませんが、いつまでも残り、消滅することはありません。

ブッダはこの詩句で、「業」というものは、あなたが思っている以上に大きいものだから、よほど気をつけなさいと注意をつながしているのです。

ここで、ブッダの「ものの見方」について紹介しましょう。少々理屈っぽくなりますが、これがわかれば仏教への理解が飛躍的に高まります。

仏教の教えの基本をなすのは「存在論」です。まず、ブッダは「自分はなぜ存在しているのか。世の中の人や物事はなぜ存在しているのか」を考えました。

たとえば、あなたの手元にあるハンカチで考えてみましょう。それは、突然現れたわけではありません。自分が気に入って買ったのか、あるいは誰かのプレゼントか。

さらに製造過程をみれば、材料の木綿は綿の種



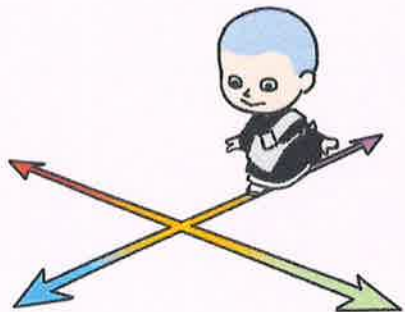
えられています。『七仏通戒僞』と呼ばれ、お釈迦様と、その以前にこの世に現れた六人のブツダたちが共通して説いた戒めとされています。つまり、お釈迦様が仏教を興すという大事業をなせたのは、前世の六人のブツダの功徳が累積した結果であるとして、お釈迦様を含めて「過去七仏」と呼ばれます。

『七仏通戒僞』の教えは、本来の汚れていない心を維持し保つことが基本ですが、汚れた心を清めるというのも、とても重要なことです。それについて、ブツダは

怒らないことによつて怒りにうち勝て。善いことによつて悪いことにうち勝て。わかち合つことによつて物惜しみ心にうち勝て。真実によつて虚言の人にうち勝て。(二三三)

悪を繰り返さないという自制心によつて本来の清らかさを取り戻し、それを「心の座標軸」にして生きるということなのです。自制心を熟成させていけば、心が悪に染まりません。慎みの力(戒)によつて、別解脱^{べつげつだつ}を育てていくわけです。

① 別解脱^{べつげつだつ}：波羅提木叉^{はらだいもくさ}ともいう。仏教徒が守るべき規範であり戒め。煩惱の繰り返しから解放されるために慎みの力の大切さを解く。「別」とは「一つひとつ」という意味で、一つずつ気づいて愚かさを繰り返さなくなることである。



毘婆尸	毘舍浮	拘留孫	拘那含牟尼	迦葉	釈迦
びはし	ひいふ	くゐん	くなん	かしよう	しやく
び	ひ	く	く	か	し
い	い	ゐ	ん	よう	やく
し	ふ	ん	ん		
い	い	ん	ん		
ん	い	ん	ん		
ん	い	ん	ん		
ん	い	ん	ん		
ん	い	ん	ん		
ん	い	ん	ん		
ん	い	ん	ん		

過去狂傲劫
遠い昔にいた仏様

現在賢劫
ブツダと同じ時期にいた仏様

過去七仏を詳しく
みてみましょう!